令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　生野区

学 校 名　　北巽小学校

学校長名　　長井　博和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・北巽小学校では、第６学年　５３名

学校名　北巽小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、全国67.7%、大阪府66%、北巽小63%（全国比93%、大阪府比95%）　領域別に大阪府の中で比べた場合、「話す・聞く」領域は大阪府比100%、「書く」領域は大阪府比105%、「読む」領域は大阪府比97%であった。平均正答率、領域別結果ともに令和5年度の対全国比、対大阪府比より向上していることが分かった。

算数の平均正答率は、全国63.4%、大阪府62%、北巽小51%（全国比80%、大阪府比82%）　領域別に大阪府の中で比べた場合、「数と計算」領域は83%、「図形」領域は78%、「変化と関係」領域は82%、「データの活用」領域は83%であった。平均正答率、領域別結果ともに令和5年度の対全国比、対大阪府比を下回っていることが分かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
成果…「書く」領域は大阪府比を5%上回り非常によくできている。
課題…「読む」領域の習得に課題があり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の問題にも課題がある。
しかし、課題面の領域でも対大阪府比は97%で、かなり近づいてきている。
また、第Ⅳ区分率(26.5%)についても、昨年度(28.6%)より2.1%下回り、改善されている。

［算数］
成果…一昨年度からの課題であった「図形」領域については、昨年度より9.4%上回り、改善されている。
課題…どの領域も対大阪府比の70%から80%代で、全体的に課題がある。
また、第Ⅳ区分率(32.2%)についても、昨年度(26.9%)を5.3%上回り、第Ⅳ区分率層も増えている。

質問調査より

成果
・「自分にはよいところがある。」への最も肯定的な回答が、全国より15.1%　、大阪府より7.8%高い。
・「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」への最も肯定的な回答が、全国より5.9%高い。
・「将来の夢や目標を持っている。」への最も肯定的な回答が、全国より1.7%　、大阪府より0.3%高い。
・「人が困っているときは、進んで助けていますか。」への肯定的な回答が、全国より3.6%　、大阪府より3.8%高い。
課題
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。」への肯定的な回答が、全国より7.0%　、大阪府より4.5%低い。
・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。」への肯定的な回答が、全国より3.3%、大阪府より2.0%低い。

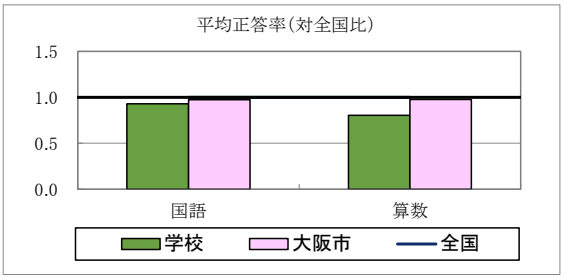
今後の取組(アクションプラン)

●国語では、次の５つの取組によって、「読む」１領域の平均正答率を上げる。　①読みの流暢性を高める「MIM」を活用した取り組みを継続的に行う。②学校司書とも連携し読む本の種類を吟味し、読書活動の充実を図る。③自分の考えを深めたり、広げたりすることができるように、学級の友達との間で話し合う活動を増やす。④簡単な読解問題を、継続的に取り組ませる指導体制を作る。⑤リーディングスキルを意識した授業プランの検討を行う。
●算数でも、次の５つの取組によって、４領域すべて（特に「図形」領域）の平均正答率を上げる。
①全国学力・学習状況調査に即した様々な問題を解く時間を設ける。②流暢性を高める「算数チャレンジ」の問題を継続的に行う。③数量関係理解の土台作りのために、「算数カルタ」の活動を継続的に行う。④具体物を用いた「わかりやすい授業」の充実を図る。⑤習熟度別少人数指導やデジタルドリルの活用など個別最適化された学習環境を作る。

【 全体の概要 】

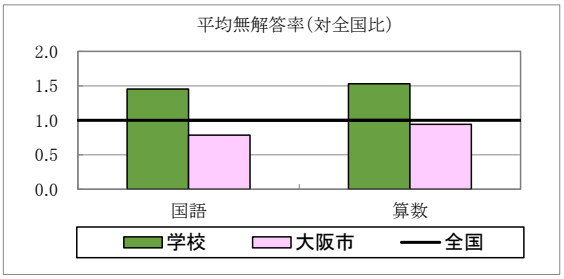
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	63	51
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（%）

	国語	算数
学校	6.1	5.2
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

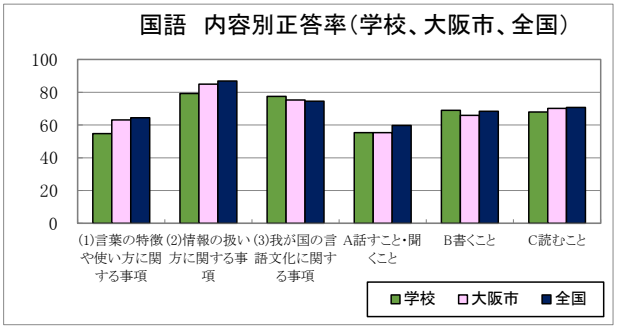


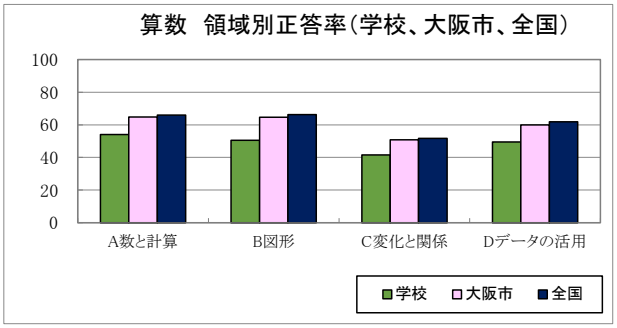
【 国 語 】

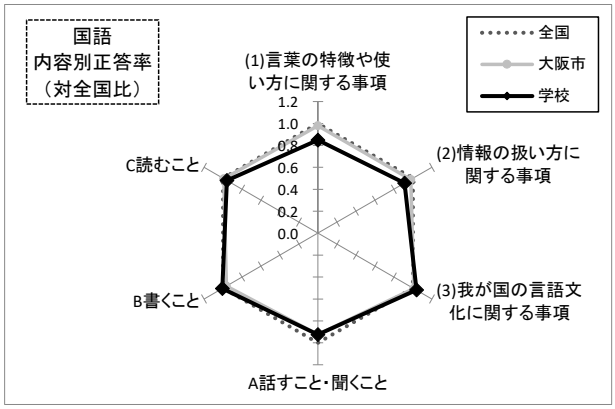
学習指導要領の内容	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	54.7	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に関する事項	1	79.2	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	77.4	75.3	74.6
A 話すこと･聞くこと	3	55.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	68.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	67.9	70.1	70.7

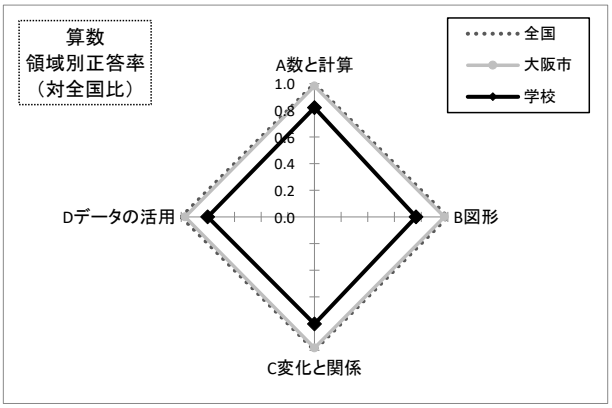
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	54.1	64.8	66.0
B 図形	4	50.5	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	41.5	50.8	51.7
D データの活用	4	49.5	60.0	61.8



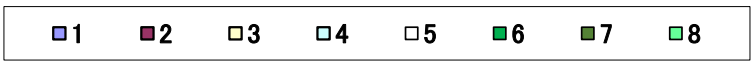




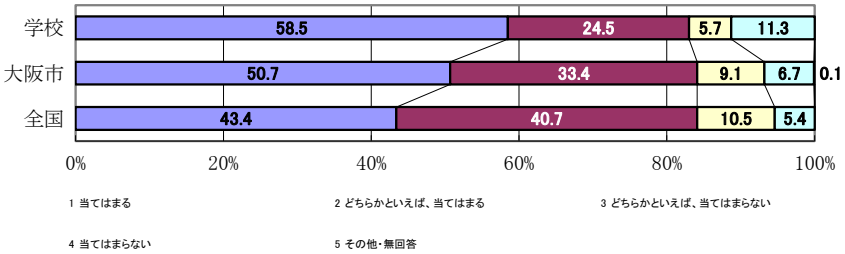


児童質問より

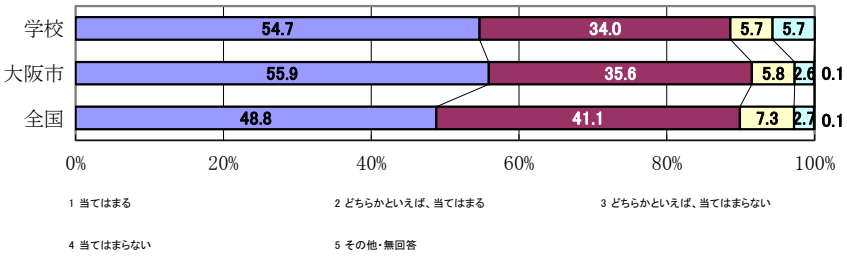
質問番号
質問事項



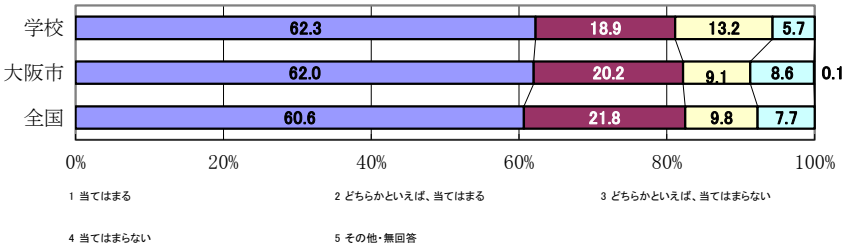
9
自分には、よいところがあると思いますか



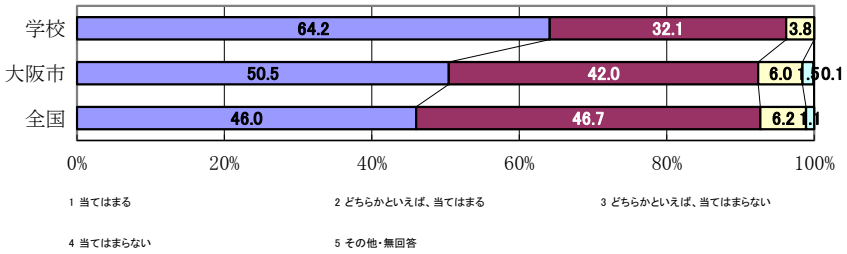
10
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



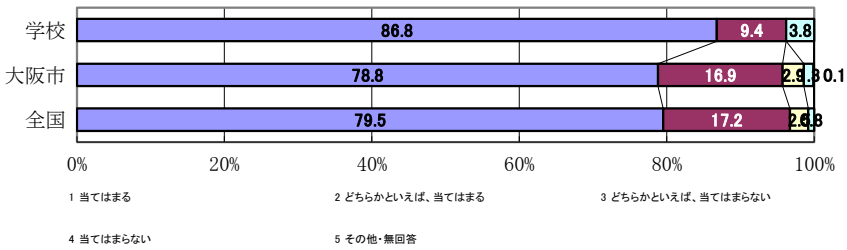
11
将来の夢や目標を持っていますか



12
人が困っているときは、進んで助けていますか

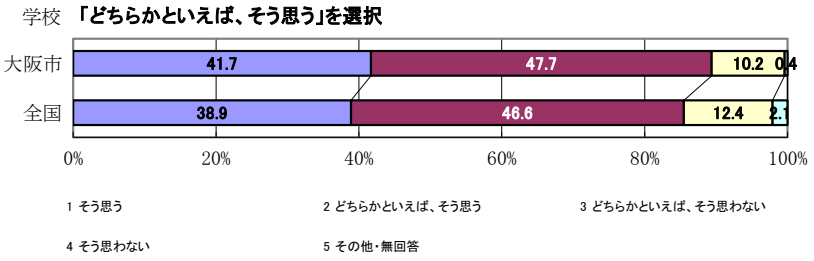


13
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

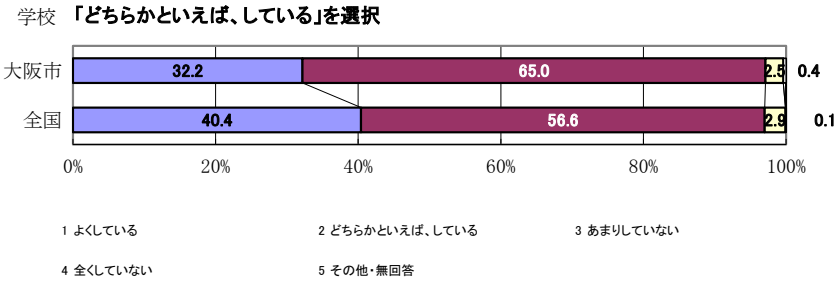


学校質問より

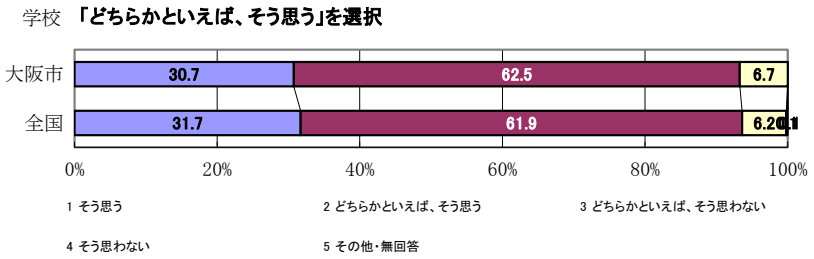
質問番号	質問事項
7	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



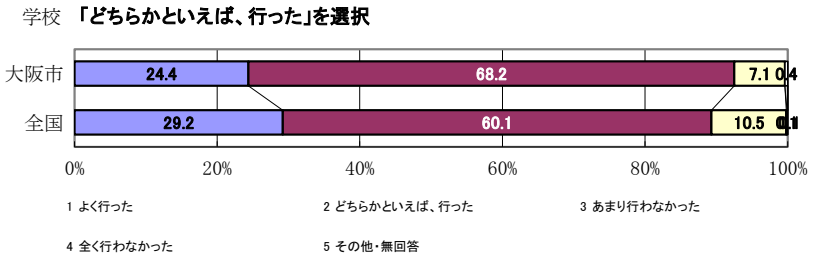
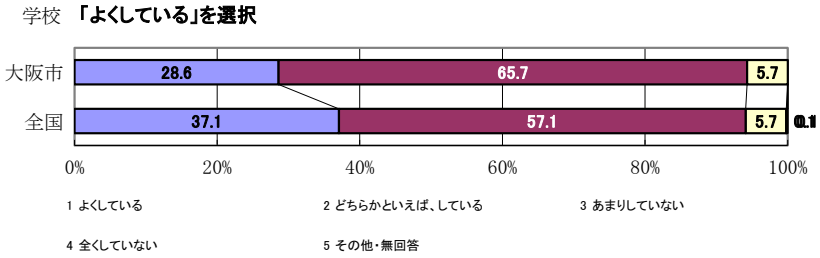
13
児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



28
調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか



33
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



37
調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか